

あとから来る者のために
坂村 真民
あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾げるのだ
あとからあとが続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分にできる
なにかをしてゆくののだ

U-net通信

2012年9月
Vol.71

発行：地球環境・共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人：大山正治／発行人：浜淵隆男



EMによる環境学習・環境浄化が進展する栃木県

～小学生から若い子育て世代にも広がるEM活用～

取材／大山

栃木県は南北に約100kmと長く南は埼玉県と群馬県に接し北隣は福島県である。昨年3月の原発事故被害は南隣の栃木県にも及んでいる。今月号では関東北部地区世話人の中庭三夫氏の案内で原発被害のある那須塩原市で放射能除染に活躍するEM柴田農園、行政との協働で活動を広げている益子町のEMネットましこ、環境学習で際立った成果を上げている足利市の葉鹿エコクラブの活動をご紹介します。



▲足利市けやき小学校花壇にて、左が大島由臣先生、右がU-net関東北部地区世話人の中庭三夫氏



▲EM柴田農園の1トンタンクをバックに左から園主の柴田和明氏、中の3人は高野優二さん親子、右は奥さんの柴田知子さん

▼益子町主催「生ごみ堆肥化モニター」講習会



栃木県北部でも放射能除染 那須塩原市 EM柴田農園

栃木県那須塩原市は栃木県北部に位置し、市の北西部には那須岳など那須連山がある。原発事故のあった福島第1原子力発電所から約100kmと離れてはいるが、背後に高い山々が連なっているため、放射線量が福島県南部の白河市並みに高い。那須塩原市の街並みが見渡せる山間の金沢地区にあるEM柴田農園(柴田和明氏)では主にEM農法によるトマトを栽培している。EM農法による野菜栽培は福島県でも公表している通り放射能は不検出であり、EM柴田農園でも独自に検査して「放射能不検出の放射能測定結果」を出している。その測定結果のチラシを添えて、生食用としての「フルティカ」や「紅旬」は地元の直売所へ出荷、これら生食用と煮炊き用の「にたきこま」は東京方面の顧客への直売で、好評。

柴田さんのEM栽培は6年目だが非常に研究熱心で、ボカシ肥料、活性液、青草堆肥、ラインマルチと無農薬有機栽培のEM農法は、ほぼ完璧。

柴田さんは、昨年3月11日の原発事故での放射能汚染に対

して、那須塩原市の汚染の現状を調べ機会あるごとにその啓発に努め、特に子供たちの健康を守るためEMによる除染を始めた。今年の5月にはU-netから百倍利器1基と1トンタンク2基を借り受け、大量培養されたEM活性液を活用し本格的に除染活動に乗り出している。現在、柴田さんが培養した活性液を活用して自宅建物や庭を除染する人は約20人、その他に那須塩原市の障がい者施設「マ・メゾン光星」は1トンタンクで、白河市の「NPO白河花里倶楽部」は300ℓタンクでそれぞれ2次培養して活用中である。EMによる放射能除染の成果だが現時点で、平均20%位減っているという。

行政や団体との協働で環境活動を拡大 益子町EMネットましこ

栃木県東部の益子町は言わずと知れた全国的に有名な陶芸の町。栃木県世話人で益子町在住の河原弘道氏や益子町台町自治会の努力で、EMによる生ごみの堆肥化は17年以上の歴史がある。その中で、現在、活動の中心となっているのが「EMネットましこ(萩原進会長)」であり、主には益子町との協働で進める生ごみの堆肥化と家庭用浄化槽からの生活雑排水の浄化環境活動(次ページに続く)

である。生ごみの堆肥化を推進する方法は町が主催する「生ごみ堆肥化モニター」制度への協力であり、本年で4年目を迎える。毎年30名の定員で募集するのだが、すぐ定員になるほどの人気。現在109人がモニターとして活動をしている。これらモニターの方々毎年8月の第4日曜日に実施している「益子EMフェア」を盛り上げてくれている。毎年恒例で勤労感謝の日に開催される町主催の「益子町産業祭」に参加して、EMによる環境浄化の宣伝とEM農法による安心安全な農産物の販売に力を入れている。また、U-ネット顧問であり益子町出身の実業家・大塚実氏の援助を得て始めた百目鬼川など町内河川浄化活動の継続や昨年の大震災で被害を受けた宮城県七里ヶ浜町に、農地の土壌改良剤としてのEMぼかし600kgを届けている。他にもいろいろな活動をしているが、萩原会長は「行政や各種団体と連携し、環境活動を拡げていきたい」と抱負を語った。

栃木県環境学習のフロントランナー 足利市葉鹿エコクラブ

足利市は栃木県南部に位置し、日本最古の足利学校など文化財や足利銘仙等絹織物の産地として名を馳せる歴史ある文化産業都市。

足利市の南部にある葉鹿小学校の「葉鹿エコクラブ(大塚久子代表)」はEMを活用しての環境学習で全国的に有名で、その際

立った活動に対して国・県・市や民間団体から数々の受賞歴がある。また、葉鹿エコクラブ10年間の活動記録をまとめた記念誌「ぼくたち、私達の挑戦」を発行している。これは、学校における環境学習のお手本になるほど素晴らしいものである。この葉鹿エコクラブの顧問である大島由臣先生は葉鹿小学校の教諭時代に当クラブを立ち上げて、現在は同じ市内のけやき小学校の教頭。そこで大島先生に環境学習でEMの活用に至った話などを尋ねた。学校へのEM導入は、EMによる環境浄化活動などの普及を進める足利市商工会議所の足利水土里探偵団のアドバイスを獲得した。その内容は、生活に直結する生ごみでの堆肥づくり、廃油利用の石鹸作り、米のとぎ汁発酵液での河川浄化やプール清掃などリサイクル・リユースの実践で「もったいない」といった環境意識を向上させる活動を地道に繰り返してきた。さらに学校を中心とした環境学習の輪を地域に広げるため「親子



環境学習会」も月1回の割合で開催し、環境学習の高揚を図ってきた。葉鹿エコクラブは栃木県を代表する環境学習のフロントランナーだ。

◀葉鹿エコクラブ会員によるぼかしづくり



琵琶湖を源流からきれいに 滋賀県高島市

～EMへの真剣さと愛情を伝えたい～

取材／村上

滋賀県高島市は、琵琶湖の西部に位置し、近畿の水瓶と呼ばれる日本一大きい琵琶湖へと注ぐ豊富な水と緑に囲まれ、豊かな自然が残されている。日本海側に近いことから冬季の寒さは厳しく、積雪量の多い日本海型気候である。同市の将来目標像は、「琵琶湖源流の郷 高島市」。同市の「環境基本条例」では、「たかしまEMオーガニック倶楽部」のメンバー等が環境推進委員の一員を引き受け、行政と市民協働による「高島市環境基本計画」を平成19年に策定した。詳細については、U-net通信Vol. 52 2008年11月号又は同市のホームページを参照して頂きたい。

「たかしまEMオーガニック倶楽部」は、少数制の講習をメインに一人ひとり丁寧にEMを伝え、家庭から琵琶湖をきれいにすることを目的として活動している市民活動団体である。これまで、森山昌善会長、森山美栄子代表、新たに滋賀県世話人となった寺本マコさん、寺本吉宗さん、永野正子さん等が市や周りの団体、個人からの委託でEMインストラクター養成講座を開講し、EMによる生ごみ減量プロジェクトにも取り組んできた。この講習は有料だが、森山夫妻と寺本さん曰く、「お金を貰うからには全力で教えるし、相手も真剣にそれを受けてくれる。」また、「教える側にも正しくEMを伝える責任があるから無料では行な

い」と。無料奉仕では、無料であるが為の曖昧さやいい加減さによって、EMが正しく伝わらず、誤解を生じたり否定される要因



▲森山ご夫妻、吉宗氏(右中)、白浜荘女将前川よし子さん(左) 高島EMオーガニックステーションにて

にもなったことから、この考えに至ったという。強い信念を持って活動する彼等からは、EMに対する真剣さと深い愛情を感じた。その真剣さや愛情は、かつては受講生であり現在講師を務める永野さんの小さな菜園や森山会長の畑にも見て取れた。見事に限界突破をしたミニトマトや胡瓜は、その実践の確かな証である。

今後は、滋賀県と隣接する県での先進事例等を見習い、仲間同士の輪を広げ、連携し、琵琶湖の環境浄化活動へと広げていくことが目標である。

▶森山会長邸にてEM食材を前に談笑する「たかしまEMオーガニック倶楽部」のメンバー





第3回「海の日」全国一斉EM団子・EM活性液投入 集計途中結果報告

「海の日」から一ヵ月が過ぎ、U-ネット事務局には報告書や写真が全国各地から寄せられているが、8月20日現在の途中経過を報告する。石川県は初めての参加で、また各県においても初参加の団体が多く見られ、環境改善活動への関心の高まりを感じる。【善循環の輪】は、着実に“大きな暖かい輪”へと広がっている。なお、最終結果報告は次号でさせていただきます。

	団体数	人数(人)	EM団子(個)	EM活性液(L)
本年8月20日現在	384	22,094	541,715	596,567
昨年の報告	360	15,158	512,776	720,029



■岩手県 一関市川崎町女性協議会



■山形県 土と食・環境の会



■福島県 大玉村商工会女性部



■愛媛県 松前町子ども環境学園2012



■栃木県 NPO足利水土里探偵団



■山梨県 武田神社



■三重県 四日市ドームの海岸



■石川県 SPC JAPAN



■宮崎県 広瀬小学校区

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■10月以降の主要行事のご案内

●EMフォーラム2012 日程 10月6日(土) 会場 てだこホール(沖縄県浦添市)

★環境フォーラム うつくしまEMパラダイス 日程 10月8日(月・祝) 会場 二本松市民会館(福島県)

●善循環の輪・滋賀の集い in 高島 日程 10月20日(土) 会場 白浜荘(高島市)

●善循環の輪・栃木の集い in 宇都宮 日程 10月27日(土) 会場 ホテル ニューイタヤ(宇都宮市)

■【うつくしまEMパラダイス】の放送が始まりました! 毎週月曜日 13:48~13:55

福島県の方々にEMの良さを広く伝えていく番組です。



河川・港湾浄化でイメージアップに挑戦する鹿児島県枕崎市

取材／杉山

EM生活で人生を謳歌 EMで環境を考える会

「EMで環境を考える会(栗野親義代表)」のメンバー約10名から日頃の活動状況を伺った。栗野代表からは、海・川の浄化活動の一環として、今年から全小中学校でのEM活性液を使用したプール清掃やトイレ清掃を推進しながら、特に汚れの酷い牧園川等の水質浄化を平成18年より小、中学校の子供達とEM活性液やEM団子投入を続けているとの説明があった。幸いにも少しずつ良化傾向にある

為に活動に弾みが付いているようだ。また、汚染の根源は生活の中にもあると考え、毎日の暮らしの中にEMを取入れた“EM生活”を各メンバーそれぞれが創意工夫を凝らしている。九州地区世話人の山下浩氏の



▲EMで環境を考える会の皆さん
山下浩氏(前列右、九州地区世話人)
栗野親義氏
(後列右、EMで環境を考える会会長)

指導のもと、活動の成果としてEMインストラクター資格を持ったメンバーが7名もいるようになったことで、衣・食・住環境下での、横々EM啓蒙活動にも力が入る。

EM生活の横々活動の一例

- EMで土づくりをした家庭菜園の成果にとっても満足している。蛍光灯にEM活性液を噴霧したところ長持ちするようになった、と笑って話す。
- ハクビシンの収穫前トウモロコシへの食害防除の為に、ニームケーキ入りEM活性液散布。テントウムシ等にも効果大。また、EM活性液で浄化槽の透明度が約10%向上させることが出来た。
- 老人会中心にEM活性液やEMクリーン石鹸を消毒消臭目的で使用。とても喜ばれている。
- ウドンコ病対策に困っている。どうしたら良いのだろうか、との問い掛けに、九州地区世話人の山下浩氏のEM2原液散布がウドンコ病に効くとのアドバイスで納得。
- 農薬散布中に倒れた患者を診た看護師さんは、農薬の怖さを実感。以来、教えてもらったEMで家庭菜園を続ける。特に土造りに際してのEMへの拘りや、雑草も新鮮緑肥の源泉と考えると億劫であった草取りも楽しいと話す。
- 住居のシロアリ対策にEM活性液を使用中。
- 生ごみボカシを家庭菜園に利用。今年もミニトマトが鈴なり状態に生育中。生ごみバケツを「お宝箱」と呼んで愛用している。

- 12号鉢にEM生ごみ堆肥と土を半分ずつ入れ、ミニトマトを作っているが、毎年大成功。実に甘くて美味しい。
- ニンニク栽培にEM活性液を使用したところ良好だった。
- 長年EM・X GOLD飲用中。EM石鹸で洗髪したら、髪が黒くなってきた。

等々、何気なく出て来る内容をメンバーさんがそれぞれにメモを取る光景は、情報の共有化であり、各自のEM生活を充実させるに十分な要素を含んでいるようだ。EM成功体験は横々活動で確かな拡がりを見せる。

しかし、EM活性液作成に際して、容器の清掃が不十分で良質なEM活性液が出来なかった等の失敗談もあったが、皆それぞれに乗り越えている様子であった。

新鮮魚類水揚げ港をクリーンアップ 鹿児島県枕崎漁協

枕崎市はかつおの街。枕崎漁港は特定第3種漁港で水産業の振興のためには特に重要であるとして政令で定められた漁港(13港)の一つ。日本には約3000の漁港があるものの、枕崎漁港のような13港で全体の約30%の水揚げをしている。そんな枕崎漁港にも悩みがある。それは港湾汚染。周辺河川からの汚染水は、ここ漁港内とて例外無く入り込んでおり、海底や定置網にも多くのヘドロの堆積が認められる。新鮮さとヘドロは相反するイメージで、EMによる

「かつおの街・枕崎を元気に健康に美しく」と立上ったのは今から3年前に遡る。枕崎漁協・牧野政義専務理事が陣頭指揮を取り「海の日」にEM団子やEM活性液を内港に投入した結果少しずつ透明度が上がっているという。今年、ダイバーによる



▲枕崎漁港(内港)と
牧野政義氏(左、枕崎市漁業協同組合・専務理事)
山下浩氏(中央) 栗野親義氏(右)

水中撮影を行ったが、映像の記録を撮り続けて海底の状態の観察を続けるそうだ。もっと多量のEM投下が必要であるが、周辺



▲投下したEM団子も見える
ヘドロの堆積した海底の様子

河川対策にも注力していて、百倍利器の新増設によるEM活性液の供給体制構築もその一つである。これらの計画を進める為には行政との協業も重要だが、まずは三河湾等の先進事例を参考にした枕崎漁協独自の取組を進めると言う。